

編集／発行●山梨県総合農業技術センター

住所●甲斐市下今井1100 〒400-0105

電話●0551-28-2496 Fax.0551-28-4909

<http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/sougonoshi/index.html>

E-mail sounou-gjt@pref.yamanashi.lg.jp



## Shine Muscat



●現地研修会



●熱心に研修をうける普及指導員



●現地での果実品質調査の様子

## ブドウ「シャインマスカット」の普及について

「果樹技術普及センター」



●オリジナル包装資材による試験販売

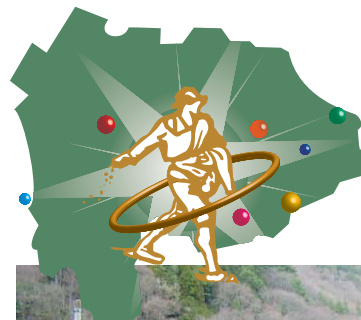
「シャインマスカット」は、(独)農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所が育成した黄緑色、大粒(12~14g)のブドウで、今注目されている品種です。ジベレリン処理により、種なしとなり皮ごと食べられます。

平成19年から全国的に苗木が供給され、今後各産地から一斉に販売が開始されます。果樹技術普及センターでは、果樹王国山梨が誇るシャインマスカットの生産を目指して、現地栽培調査試験(平成17年度~)を実施し、品種特性の把握と栽培技術の確立を図るとともに、普及指導員やJA営農指導員、栽培者を交えて研修会を行っています。

また、「シャインマスカット生産・販売会議(JA全農やまなし)」において、出荷規格・販売方法などを検討するための試験販売を行っており、今年は8月18日から露地栽培の出荷も始まり、約4tが販売され市場からも好評を得ています。

# RENAISSANCE OF AGRICULTURE IN YAMANASHI

## やまなし農業ルネサンス 普及センターの活動報告



地域の農業を支える女性起業



●にぎわいを見せる直売所(全景)



●にぎわいを見せる直売所(店内)

### 「中北地域普及センター」

甲府市の古閑町や梯町では、地元の女性グループが、農産物直売所を運営し、地域で穫れた季節の野菜や山菜、農産加工品の販売を行って来ました。

この女性グループの販売活動も10年余りが経過し、メンバーも高齢化してきたため、普及センターでは、今後の活動を継続・発展させていくために、グループを法人化していくことを勧めてきました。また、時期を同じくして、直売所と加工所のリニューアルが行われる事となったため、新しい加工品の開発もあわせて支援してきました。

平成21年4月、「上九ふれあい農産物直売所」がオープンし、16名の女性により構成された「農事組合法人上九ふれあいの里」へと生まれかわり、新商品も完成しました。

現在は、地域で穫れた季節の野菜や山菜のほか、共同ほ場のよもぎを使った「よもぎまんじゅう」や「よもぎうどん」、季節の野菜をふんだんに使った「野菜弁当」が多くのお客様から好評を得ています。



ブドウの新品種を学ぶ...指導農業士会の活動支援



●熱心に話を聞く会員



●研究員との意見交換

### 「峡東地域普及センター」

峡東地域普及センターでは、管内の指導農業士会(東山梨地区:会員28名)、(東八代地区:会員21名)を対象に、果樹試験場ほ場において、ブドウ新品種「シャインマスカット」、「サニードルチェ」の研修会を開催しました。

指導農業士は、農業後継者の相談相手となったり、新規就農者や農業高校、農業大学校など関係機関からの研修受入など、担い手育成に関する活動を行っています。

今回の研修は、指導農業士の方々に、ブドウ新品種の特徴を確認して頂き、今後、農業後継者や研修生等からの相談や指導に対し、役立ててもらうことを目的としています。

また、視察後には果樹試験場職員と、今年の果樹の栽培状況、試験研究の取組、果樹経営の将来方向などについて、幅広く意見交換を行いました。

今後、各地区における指導農業士の活躍を期待しています。



環境に配慮した農業の推進



●水稻の肥料資材の検討ほ場



●現地調査の様子

### 「峡南地域普及センター」

地球環境保全に対する国民の関心が高まるなかで、農業分野においても環境に与える負荷を軽減させる観点に立った活動が求められています。

そこで、増穂町最勝寺地区では、農地・水・環境保全向上対策の営農活動に本年度から取り組んでいます。

この地区では、水稻で環境保全型農業の取り組みを行っており、JAふじかわに導入された「温湯種子消毒機」の活用や、鶏糞などの有機質肥料による減農薬・減化学肥料栽培を行っています。また、肥料資材の展示ほを設置し、新たな有機配合肥料での栽培検討を行っており、今後の肥料設計に活用したいと考えています。

今年度は、20戸265aと小規模ですが、地域ぐるみで環境に配慮した農業に取り組んでいます。



「獣堀くん」普及に研修会を開催



●獣堀くんの設置の様子

### 「富士・東部地域普及センター」

都留市では、獣害対策として地域住民が自主的に猿・猪対策協議会を設置し、追い払い活動などを行っていますが、効果的な対策として、昨年度総合農業技術センターが開発した多獣種対応型電気柵「獣堀くん」への関心が高まっていました。

そこで、富士・東部地域普及センターでは、総合農業技術センターと連携して、市内の猿・猪対策協議会や管内の鳥獣害防止技術指導員等を対象に、設置技術研修会を開催しました。研修会当日は雨天にもかかわらず、多くの会員が参加し、被害軽減への熱意の高さが感じられました。

設置後の現地検討会では、「猿が近くに来るものの、被害は発生していない」との効果が確認されており、関心の高さを感ずるとともに、新たな設置希望も出ています。

山梨県総合農業技術センターで約10年の歳月をかけて育成した新品种です！  
夏秋どりイチゴ「かいサマー」の生産開始

山梨県で穫れました！「総合技術普及センター」



Kai-Summer

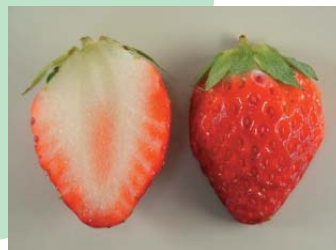
イチゴの需要は、生食用以外でもケーキなどの洋菓子業界から周年的にあります。イチゴの生産は一季成り性品種を用いた冬春期が中心で7月から10月の夏秋期は、暖地での果実生産が困難となりその需要の大半は輸入に頼っているのが現状です。

県内では、夏季冷涼な気候を生かし北杜市や富士河口湖町などの高冷地を中心に四季成り性品種を用い、洋菓子店を対象とした出荷や観光摘み取り用に夏どりイチゴの生産が行われてきましたが、これまでの品種は酸味が強く果実の形状も消費者の要望に十分に沿うものではありませんでした。

こうした中、総合農業技術センターにおいて、果実形状と食味がよい四季成り性品種「かいサマー」が育成され、品種登録されたことにより、本年度より各地域において「かいサマー」への品種の切り替えが進み本格生産が行われています。

平成8年度より夏どりイチゴの生産に取り組んできたJA梨北夏どりイチゴ部会では、新たな販路として県内の洋菓子店や観光施設内のレストランへのお荷を開始しました。それを利用した新たなメニューを提供するなど実需も県のオリジナル品種のPRに協力いただいています。

本格的に導入に向けてこれまで、各地域に実証ほを設け地域適応性などを検討してきました。今後、生産者や農協、県関係機関と連携しより安定生産に向けた技術確立を行い、生産拡大を図るとともに、新たな産地の掘り起こしを行い「かいサマー」の栽培面積の拡大に取り組めます。



●大きく実ったかいサマー



＜日本お菓子ばなし＞

吉田菊次郎先生の著書

「日本お菓子ばなし山梨の巻」で紹介されています！

名前の由来 ● 甲斐(かい)の国でしか食べられない、夏から秋に収穫できるイチゴだから。

新品种 ● 農林水産省で認められた新品种です。登録番号:第18012号

特徴 ● 酸味が少なく、糖度の高いイチゴです！

農業セーフティネット資金のご案内



果樹の作柄不良、収量減などによる一時的に売上減少、所得率減少となった場合、経営の維持安定に必要な長期運転資金(融資限度額300万円/8月19日現在年利1.0%(5年償還の場合))を借り入れることができます。また、認定農業者で、一定の要件を満たす場合、予算の範囲内で、実質無利子になるまで利子軽減措置を受けることができます。

● 詳しくは、最寄の県農務事務所、日本政策金融公庫甲府支店 TEL.055-228-2182へご相談ください。

(注) 審査の結果により、ご希望に添えない場合がございます。

Safety net